

おきつの朝市

新鮮で安いヨ 早くいらっしゃい！

おきつの朝市

JAしみず興津営農拠点の敷地内にある。昭和50年代に無人販売としてスタート。歴史は長い。「最初は、女性が自分のお金が欲しくて始めたんだけど。今は、一家の大切な収入源となっている」と、杉山万珠子さんは言う。女性の力は、すごい！店頭には、採れたて旬の新鮮野菜・果物、切り立ての花、手作り小物などが鎮座。たくさん的人がやってきて、あっという間に品物が減っていく。これは、早い時間に来なければだめだな。「俺1人暮らし。週2くらいで来る。料理の仕方なんかていねいに教えてくれるもんで、ついついたくさん買ってしまうだよ。男の客も多いな」と、60代の男性常連客。会話がはずむ。レジも忙しい。

月～金：8時～11時 土・日・祝：休み



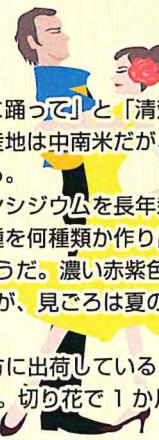
蘭でちょっと贅沢な気分を味わう

オンシジウム

黄色のフリルが踊り子のように見えることから、花言葉は「一緒に踊って」と「清楚」。この踊り子様の黄色い蘭が、一番ポピュラーなオンシジウム。原産地は中南米だが、日々品種改良が進み、さまざまな色・形のオンシジウムが誕生している。

興津は、日本でも名だたるオンシジウムの産地だ。すごい！ オンシジウムを長年栽培している北川評一さんを訪ねた。北川さん自身も、交配を重ねて新種を何種類か作り出した。「虫が飛んでいる時期に交配させるんですが、なかなか大変」だそうだ。濃い赤紫色でドライフラワーにも見える蘭（写真）、これもオンシジウム。年中咲くが、見ごろは夏の終わりから冬にかけて。

ハウスでは6品種のオンシジウムが花開き、約15万本を京浜地方に出荷している。おきつの朝市で、1束（5～6本）200～300円で販売している。切り花で1か月以上もつので、しばし楽しむことができる。



太陽をいっぱいに浴びた実

枇杷

枇杷といえば、静岡では土肥だが、興津の枇杷もうまい。1～2月ごろ白い花が散り、小さな実がついてくると摘果して、袋掛けが始まるのが2月下旬ごろ。1個1個袋をかけるのは大変そうだ。丁寧に枇杷と向き合って収穫は6月ごろになる。

枇杷農家の飯田通義さんに話を聞いた。「うちの枇杷畑は、薩埵峠近くにあるんよ。ま、見晴らしがいいし、陽もよくあたる。だから、うまいんよ、抜群よ」。潮風と強い太陽の日差しで、大きくて味のよいブランド枇杷「おきつ枇杷」ができるのだ。できた枇杷は、地元のスーパーとJAの販売所に並ぶ。おきつの朝市でも販売する。6月になったら、すごい甘さを、ぜひ。



もらって、あげてうれしいバラ

バラ

「北川バラ園」の北川慎悟さんの祖父は、茶・ミカン農家だった。父の代にバラを作り始め、慎悟さんはバラ2代目。「病害虫の駆除が大変でね。その対策がひと苦労」と言う。

ハウスで、シーアネモネなど約10種類のバラを育てている。作業場には、黄・真紅・ピンク・クリームなど色とりどりのバラが並び、手袋をして出荷作業に励んでいるお父さんたち（写真）。JA清水へ卸される。買いたいときは、作業場まで買いに行くかおきつの朝市で。規格外が1本100円～。アレンジメントの注文が可。切りバラを日持ちさせる方法は、下から3センチ部分を水切りして、1リットルにつき台所漂白剤1滴を入れるといい。「バラは日持ちが悪いって言われます。だから、日持ちのいいバラを作っています」と、ここもまた、すごい。乞うご期待。



バラの申し込み TEL:054-369-1285 (静岡市清水区承元寺町100)



一般社団法人
しづおか観光・産業戦略推進機構

T 420-0033 静岡県静岡市葵区昭和町2-2

昭和町SIAビル3階

TEL 054-272-5358 FAX 054-204-5018

TIPS とは

一般社団法人しづおか観光・産業戦略推進機構の略称です。政府の「稼ぐ観光」推進にのっとり、静岡のものづくりを柱に、この地域を国内外に広く売り込む「総合商社」的機能を目指すため、世界に誇るプラモデルメーカーである株式会社タミヤ代表取締役会長兼社長である田宮俊作を

TIPS 会員募集中

21世紀最大の産業と言われるのが「観光産業」です。元気な町には、自然に人が集まります。訪れる人はもちろん、この地に住む人たちも共に笑顔で活気あふれる静岡を作るため、観光業界にとどまらず、地域が一丸となる取組みが必要です。その調整役をTIPSが担います。